

第 7 章

水 産 業

第 7 章 水 産 業

概況

大阪府の漁業は、瀬戸内海に属する大阪湾の東半分を主要漁場とし、主として内湾性の魚介類を漁獲対象として営まれる沿岸漁業である。

大阪湾は淀川、大和川をはじめ、多くの河川が流入し、飼料生物は豊富で、瀬戸内海の中でも上位にランクされる生産性の高い漁場となっている。また、南北に連なる海岸線は、府内9市3町にまたがっている。

主な漁獲物は、魚類では「いわし類」、「このしろ」が中心で、次いで「いかなご」、「まあじ」、その他の水産動物類では「えび類」、「しやこ」、「たこ類」となっている。

また、漁港は平成11年12月末現在で12港、そのうち第1種が10港、第2種が2港となっている。

海面漁業経営体・使用漁船数

平成12年1月1日現在で実施した漁業動態調査によると、府内における海面漁業経営体数は715経営体で、これを市町別にみると、岬町が141経営体で最も多く、次いで泉佐野市で、岸和田市と阪南市が同数でこれに続いている。

また、経営組織別にみると、個人経営体が660経営体で、全体の92.3%を占めており、以下、共同経営が53経営体(構成比7.4%)、漁業生産組合が1経営体(同0.1%)となっている。

経営体が調査期日前1年間に使用し、調査日現在も保有している漁船の総隻数は、937隻で、その内訳をみると、動力船が910隻(同97.1%)、船外機付船が27隻(同2.9%)となっている。

動力船についてトン数規模別にみると、5～10t(構成比

53.3%)が最も多く、次いで、1～3t(同23.4%)、3～5t(同16.6%)、10t以上(同5.7%)の順となっている。

海面漁業漁獲量

平成12年の総漁獲量は2万2131tで、これを市町別にみると、岸和田市が1万6832t(構成比76.1%)で最も多く、次いで、泉佐野市1391t(同6.3%)、岬町1098t(同5.0%)となっており、この2市1町で全体の87.4%を占めている。

また、漁業種類別にみると、2そうまき巾着網が1万5162t(構成比68.5%)、ひき回し船びき網3627t(同16.4%)、小型底びき網1770t(同8.0%)の順となっており、この3漁業で全体の92.9%を占めている。

魚種別では魚類が2万1259t(構成比96.1%)と漁獲量のほとんどを占めており、以下、その他の水産動物類796t(同3.6%)、貝類76t(同0.3%)の順となっている。魚類のうち「いわし類」が1万2099tで最も多く、全漁獲量の54.7%を占めている。

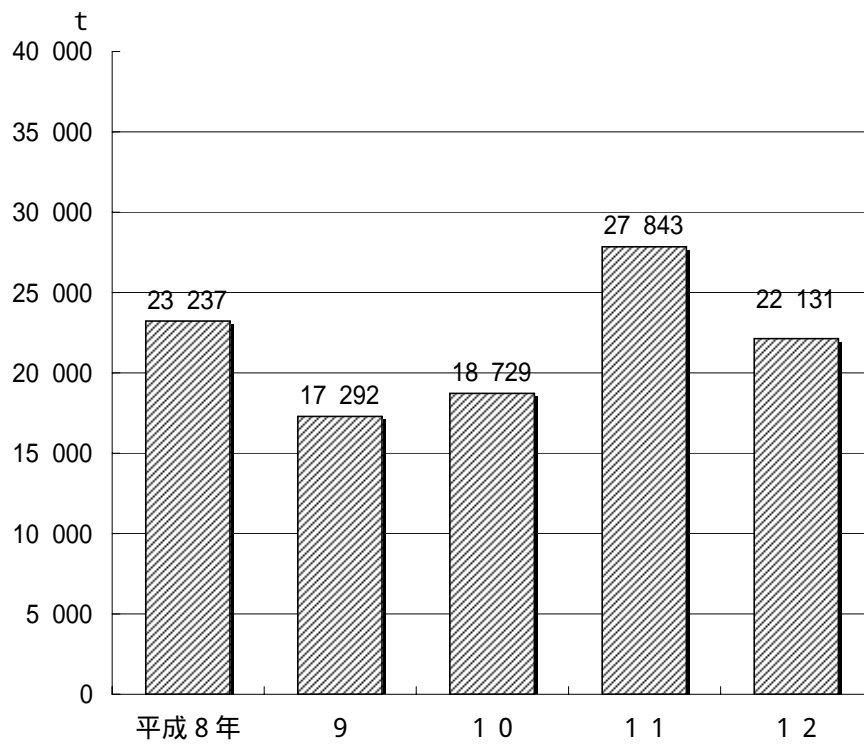
内水面漁業漁獲量

平成12年の内水面漁業漁獲量は7tで、魚種は「あゆ」のみである。

内水面養殖業収獲量

平成12年の内水面養殖業収獲量は410tで、これを養殖魚種別にみると、「ふな」が373t(構成比91.0%)で最も多く、次いで「えび類」5t(同1.2%)、「あゆ」2t(同0.5%)の順となっている。

海 面 漁 業 漁 獲 量 の 推 移



市町別、海面漁業漁獲量の割合（平成 12 年）

